第十講『大和物語』

次の文章を読み、後の問い（問一〜問八）に答えなさい。この文章は『大和物語』の一節で、主人公の平中が、ある「女」と契りを結んだその翌朝の場面から始まっている。

平中、そのあひけるつとめて、[1]人おこせむと思ひけるに、（注1）つかさのかみ、にはかにものへいますとて寄りいまして、寄りふしたりけるを、おひ起こして、「今まで寝たりける」とて、（注2）逍遥（せうえう）しに遠き所へ率ていまして、酒飲み、ののしりて、さらに帰し給はず。[x]からうじて帰るままに、（注3）亭子の帝の御ともに大井に率ておはしましぬ[A]。そこにまた二夜さぶらふに、いみじう酔ひにけり[ア]。夜ふけて帰り給ふに、この女のがり行かむとするに、[2]方ふたがりければ、おほかたみな違（たが）ふ方へ、院の人々類して往（い）にけり[イ]。「この女、いかに[y]おぼつかなくあやしと思ふらむ」と、恋しきに[ウ]、「[3]今日だに日もとく暮れなむ。行きて有様もみづから言はむ。かつ、文をやらむ」と、酔ひさめて思ひけるに、人なむ来てうちたたく。「たそ」と問へば、「なほ（注4）尉（ぞう）の君（きみ）にもの聞（きこ）えむ」といふ。さしのぞきて見れば、この家の女なり。胸つぶれて、「こち、来」といひて、文をとりて見れば、いと香ばしき紙に、切れたる髪をすこし（注5）かいわがねてつつみたり。いとあやしうおぼえて、書いたることを見れば、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あまのがはそらなるものときしかどわがめのまへのなみだなりけり

と書きたり。あまになりたるなるべしと見るに、目もくれぬ。心きもをまどはして、この使に問へば、「はやう御ぐしおろし給うてき。かかれば（注6）御たちも昨日今日いみじう泣きまどひたまふ。下種（げす）の心地にも、いと胸いたくなむ。さばかりに侍りし御ぐしを」といひて泣く時に、男の心地いといみじ。

（注1）つかさのかみ……役所の長官。
（注2）逍遥……気ままにぶらぶら歩くこと。
（注3）亭子の帝……宇多院。
（注4）尉の君……平中を指している。
（注5）かいわがねて……輪の形に曲げて。
（注6）御たち……「女」にお仕えする女房たち。

問一　「おはしましぬ」の波線部A「ぬ」と文法的に同じものを、本文中の波線部ア〜エから一つ選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部ｘ「からうじて帰るままに」、ｙ「おぼつかなくあやし」、ｚ「心きもをまどはして」の意味として最も適切なものをア〜エからそれぞれ一つ選べ。

ｘ
ア　やっとのことで帰るとすぐに
イ　つらい思いで帰ったところ
ウ　どうにかして帰ったならば
エ　ゆっくり帰るのにまかせて

ｙ
ア　じれったくつらい
イ　あきれるほど奇妙だ
ウ　何とかして会いたい
エ　気がかりでおかしい

ｚ
ア　気持ちを落ち着けて
イ　ためらい躊躇（ちゅうちょ）して
ウ　うろたえあわてて
エ　真剣な様子で

問三　傍線部１「人おこせむと思ひける」の説明として最も適切なものをア〜エから一つ選べ。

ア　寝ている平中を従者が起こそうと思った
イ　平中が女のもとに手紙を送ろうと思った
ウ　役所の長官を平中が仕事にかり出そうと思った
エ　平中が役所の長官を女に会わせようと思った

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部２「方ふたがりければ」について、「方ふたがり」とは陰陽道で「目的地に行くことがはばかられること」を言うが、それを避けるためにすることとして最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　解脱(げだつ)　イ　物忌み　ウ　結縁(けちえん)　エ　方違(たが)え

問五　傍線部３「今日だに日もとく暮れなむ」の現代語訳として最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　きっと今日だけは日も早く暮れるだろう
イ　おそらく今日は日も早く暮れるだろう
ウ　その上今日までも日も早く暮れてほしい
エ　せめて今日だけでも日も早く暮れてほしい

問六　本文中の和歌「あまのがはそらなるものとききしかどわがめのまへのなみだなりけり」の中には掛詞がある。それはどの句の中か。最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　あまのがは
イ　そらなるものと
ウ　わがめのまへの
エ　なみだなりけり

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部４「御ぐしおろし」と意味の異なるものとして最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　かたち変ふ
イ　世を遁（のが）る
ウ　もとどり切る
エ　袖（そで）をしぼる

問八　傍線部５「男の心地いといみじ」における平中の気持ちを説明したものとして最も適切なものをア～エから一つ選べ。

ア　契りを結んだ女が出家をする時に切ったという髪の美しさに、悲しいながらも思わず目を奪われている。
イ　契りを結んだ女が出家をしたことで使いの者たちも悲嘆にくれていると聞き、たいそう悲しんでいる。
ウ　契りを結んだ女の行方がわからなくなってしまったと使いの者から聞いて、心の底から心配している。
エ　契りを結んだ女の行方を探しているという女の家人たちに、できるだけ力になろうと強く決意している。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　復習問題

①「夢か現かおぼつかなし」の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　夢での姫君との出会いを、思い出せない。
イ　姫君との出会いは、夢か現実か判然としない。
ウ　夢で見た姫君と、現実に出会うとは驚きである。
エ　姫君との夢の逢瀬（おう）が、必ず現実となってほしい。

②「おこせたまへ」とは、どのような意味か。次の中から最適なものを選べ。

ア　もう出発してください。
イ　迎えの人を寄こしてください。
ウ　あなたが迎えに来てください。
エ　今日、一緒にお連れください。
オ　唐に行く時は知らせてください。

③「方違へよ」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　唐土の方角（西）へ行きなさい
イ　吉方の所（家）に行きなさい
ウ　出発の儀式を行ないましょう
エ　行く方角を間違えないようにしなさい
オ　撫子の咲いている方角へ行きましょう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「もの一言をだに言はむ」の現代語訳として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　さらに何か一言を言わせてください
イ　今ごろ何か一言を言っているだろう
ウ　せめて何か一言だけでも言ってやろう
エ　かつて何か一言だけ言ったことがあった
オ　そのうち何か一言を言うことがあるだろう

⑤　次の傍線部「あまの川」に用いられた表現技法として、最も適当なものを次の中から選べ。

あまの川空なるものと聞きしかどわが目の前の涙なりけり
「尼になるべし」と思ふに、目くれぬ。

ア　歌枕　　イ　縁語　　ウ　掛詞　　エ　序詞　　オ　枕詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　模範解答

問一　ア　**問二**　x ア　y エ　z ウ　**問三**　イ
問四　エ　**問五**　エ　**問六**　ア　**問七**　エ　**問八**　イ

〔現代語訳〕

平中が、その（女と）契りを結んだ翌朝、（後朝の文を持たせた）人を送ろうと思っていた時に、役所の長官が、急にある所へいらっしゃるということで（平中のところへ）お立ち寄りになって、（平中が物に）寄りかかって寝ていたのを、せき立て起こして、「今まで寝ていたとは」と言って、散歩をしに遠い所へ連れていらっしゃって、酒を飲み、大騒ぎして、まったく（平中を）帰しなさらない。やっとのことで帰るとすぐに、亭子の帝（＝宇多院）が（平中を）お供として大井川に連れていらっしゃった。そこでまた二晩お仕えしていたが、（平中は）すっかり酔っ払ってしまった。夜が更けて（帝が）お帰りになる時に、（平中は）この女のもとへ行こうとすると、方塞がりになっていたので、だいたいみな方違えの方へ、院に仕える人々は連れ立って行った。（平中は）「この女が、どんなに気がかりでおかしいと思っていることだろう」と、恋しいので、「せめて今日だけでも日も早く暮れてほしい。（女のもとへ）行って事情も自分から言おう。また、手紙も送ろう」と、酔いから醒めて思っていると、人が来て（戸を）叩く。「誰ですか」と問いかけると、「何としても尉の君に申し上げたい」と言う。のぞいて見ると、女の家の下女である。胸がどきっとして、「こちらへ、来なさい」と言って、手紙を受け取って見ると、たいそう香ばしい紙に、切った髪を少し輪の形に曲げて包んである。たいそう不思議に思われて、書いてあることを見ると、

　あまのがは……＝天の川は空にあるものと聞いていましたが、私の眼の前を流れる涙の川がそれでした（尼になるなんて自分には関係のないことだと思っていましたが、実は自分の目の前の悲しい出来事でした。）

と書いてあった。（すでに）尼になっているに違いないと思うと、（平中は）目の前が暗くなった。うろたえあわてて、この使いに尋ねると、「もはや御髪を切り落とし（尼になり）なさってしまいました。それでお仕えする女房たちも昨日今日たいそう泣いて取り乱していらっしゃいます。（私のような）卑しい者の心にも、（お気の毒さに）ひどく胸が痛くなります。あんなに美し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

かった御髪ですのに」と言って泣く時に、男の悲しみは本当に大変なものだった。

〔重要単語〕

○おこす【遣す】…①**よこす**。②こちらへ～する。
○にはかなり【俄なり】…**突然だ**。
○からうじて【辛うじて】…**やっとのことで**。
○がり…**～のもとへ**。
○おぼつかなし…①**はっきりしない**。②**気がかりだ**。③**待ち遠しい**。
○あやし【怪し・奇し・異し】…**不思議だ**。
【賤し】…**粗末だ**。**身分が低い**。
○とく【疾く】…①**早く**。②すでに。
○ふみ【文】…①**書物**。②**手紙**。③**学問**。特に、**漢学**。④**漢詩**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講　解答解説

〔解説〕

① 「おぼつかなし」は重要単語で、「はっきりしない・気がかりだ・じれったい」の意味。「現（うつつ）」も重要単語で、「現実・正気」の意味。よって、正解はイ。

② 「おこす」は重要単語で、「よこす」の意味。よって、正解はイ。

③ 古文常識問題。「方違へ」は、天一神（なかがみ）などのいる方角を避けること。行く方角がこれに当たると災いを受けると信じ、前夜吉方の家に泊まり、そこから方角を変えて目的地に行った。よって、正解はイ。

④ 「だに」は「〜さえ」か「せめて〜だけでも」と訳す。選択肢を確認すると「〜さえ」と訳しているものがないので、「せめて〜だけでも」と訳しているウが正解。ちなみに、**限定**の訳のときは、**下に「意志・仮定・願望・命令」**のどれかがあるはずなので、「言はむ」の「む」が意志だとわかる。

⑤ 「あまの川」の「あま」に、「天」と「尼」の意味が含まれている。よって、正解はウ。

〔解答〕

① イ　② イ　③ イ　④ ウ　⑤ ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。